

養殖衛生管理体制整備事業

高村 一成・隅川 和・高月 明

内水面養殖業においては魚病被害が頻発しており、養殖業者の経営悪化の大きな要因となっている。また、水産用医薬品の残留に対する懸念など、養殖業の安全性に対する消費者の関心が高まっている。さらに、特定疾病であるコイヘルペスウイルス病のまん延防止や県内河川におけるアユ冷水病の発生動向の把握、新たな魚病の発生などに対応するため、より迅速な魚病診断体制の確立が必要となっている。こうした課題を解決するため、当事業では効率的な魚病診断体制の整備、医薬品の適正使用の指導、水産用医薬品の残留検査並びに養殖場の巡回調査等を行う。

1 医薬品の適正使用に関する指導

養殖場の巡回時に水産用医薬品の適正使用について指導を行った。

また、下表の会議において、水産用抗菌剤使用指導書の交付等について指導を行った。

表 1 令和 7 年度に養殖衛生管理技術対策の普及・啓発を目的として参加した会議の概要

開催日	会議等名称	開催場所	当センターからの口頭発表内容
3 月 25 日	令和 8 年度高知県淡水漁業協同組合総会	高知県香南市	水産用抗菌剤使用指導書の交付及び水産用抗菌剤の適正使用に関する指導

魚病診断の結果、投薬治療が必要と判断された場合は、分離菌に対する薬剤感受試験を行うこととしている。今年度を実施した事例は下記のとおりである。

持込日	学名	魚種	天然・養殖	分離部位	OA	FF	OTC	SO
2025/5/28	<i>Edwardsiella tarda</i>	ウナギ	養殖	腎臓	+++	-	-	-

2 養殖衛生管理技術の普及・啓発

(1) 養殖衛生管理技術対策

下表の会議に出席し、知見の収集、関係者への情報提供などに努めた。

表 2 令和 7 年度に養殖衛生管理技術対策の普及・啓発を目的として参加した会議の概要

開催日	会議等名称	開催場所	当センターからの口頭発表内容
9 月 8 ～ 9 日	第 39 回近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会	滋賀県彦根市	令和 6 年度診断実績の報告
10 月 8 日	中央東福祉保健所管内水質汚濁事故対策	県中央東福祉保健所（香美）	「河川・用水路で見られるへい死魚の死因について」 ・天然水域における魚類の主要なへい死原因は魚病の他、

	連絡会議	市)	有害物質や酸欠、高水温などが挙げられる。 ・特定疾病の1つであるコイヘルペスウイルス病は県内では2024（R6）年に1件発生した。県内での発生は2013（H25）年以来であった。 ・同病のまん延防止策として、生きたコイを他水域へ移動させない、へい死したコイを天然水域へ遺棄しないことなどが重要となる。
12月10～11日	魚病症例研究会	Web参加	当センターからの発表なし
2月17～18日	令和7年度アユ疾病研究部会	山梨県	令和6年度の魚病診断実績の報告

（2）養殖技術指導

1) アユ

放流用種苗の保菌検査、各種疾病への対策（投薬等）について、指導及び助言を行った。

2) ウナギ

各種疾病への対策（餌止め、換水、投薬、昇温等）について、指導及び助言を行った。

3 養殖場の調査・監視

（1）魚病被害・水産用医薬品使用状況調査

県内のアユ、ウナギ及びアマゴの養殖業者を対象に、令和6年1月～12月における魚病被害及び水産用医薬品の使用状況について、調査を行った。

（2）医薬品残留検査

養殖ウナギ2検体について、トリクロロホン、オキシテトラサイクリン、オキシリン酸、フロルフェニコール及びスルファモノメトキシンの5種類の医薬品を対象に残留検査を実施した。外部の検査機関において検査を実施したところ、検体から対象医薬品は検出されなかった。

4 疾病の発生予防・まん延防止

（1）魚病診断

県内の天然水域等（個人池・ため池を含む）及び養殖場における疾病のまん延防止及び予防を目的とした魚病診断を実施し、魚病の発生状況の把握に努めた。なお、診断件数には養殖業者が健康診断の目的で当センターに診断を依頼したものも含んでいる。

1) 天然水域等

令和7年度の天然水域等における魚病診断件数は7件で、魚種別ではアユ5件、ウナギ1件、

コイ 1 件であった（表 3）。アユではエドワジエラ・イクタルリ感染症が 4 件、カラムナリス病が 1 件であった。また、ウナギではミズカビ病が 1 件、コイでカラムナリス病が 1 件であった。

2) 養殖場（食用及び放流用）

令和 7 年度の養殖場における診断件数は 33 件で、魚種別ではアユ 17 件、アマゴ（サツキマス） 3 件、ウナギ 13 件であった（表 4）。

アユでは異形細胞性鰓病が 2 件、カラムナリス病が 1 件、不明が 4 件であった。アユの 10 件及びアマゴ（サツキマス）の 2 件は保菌検査であり、PCR 検査の結果、主要な細菌病及びウイルス病の病原体はいずれも陰性であった。また、アマゴではミズカビ病が 1 件あった。ウナギでは合併症を含む発生件数で、カラムナリス病が 10 件、パラコロ病が 4 件、シュードダクチロギルス症が 5 件、トリコジナ症が 2 件、ベコ病が 1 件、不明が 2 件であった。

（2）病魚等から分離された菌株の保存及び外部機関への譲渡

感染試験や遺伝子解析への使用を目的として、魚病診断を行った病魚から分離された病原菌などの菌株を凍結保存した。令和 7 年度は計 8 株を保存した。

表 3 天然水域等での魚病診断件数（令和 7 年度）

発生水域	魚種	病名	R7年度												計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
天然水域 (個人池含む)	アユ	冷水病													0
		エドワジエラ・イクタルリ感染症						3	1						4
		カラムナリス病				1									1
		不明													0
	ウナギ	冷水病													0
		ミズカビ病									1				1
	コイ	コイヘルペスウイルス病													0
		カラムナリス病			1										1
	キンギョ	ヘルペスウイルス性造血器壊死症													0
	ナマズ、フナ	不明													0
小 計			0	0	1	1	0	3	1	0	1	0	0	0	7

表 4 養殖場での魚病診断件数（令和 7 年度）

発生水域	魚種	病名	R7年度												計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
養殖	アユ	冷水病													0
		異形細胞性鰓病		2											2
		カラムナリス病		1											1
		餌料の消化不良													0
		保菌検査	1	1		2		1	3					2	10
		不明	1			2		1							4
	アマゴ (サツキマス)	伝染性造血器壊死症													0
		ミズカビ病												1	1
		保菌検査			1			1							2
		不明													0
	ウナギ	ウイルス性血管内皮壊死症													0
		カラムナリス病						1					1		2
		カラムナリス病+トリコジナ症													0
		バラコロ病													0
		シュードダクチロギルス症													0
		カラムナリス病+シュードダクチロギルス症	1						1	1	1				4
		バラコロ病+カラムナリス病+シュードダクチロギルス症		1											1
		バラコロ病+カラムナリス病+トリコジナ症										1		1	2
		バラコロ病+カラムナリス病												1	1
		トリコジナ症													0
		ミズカビ病													0
		べこ病				1									1
		不明			1									1	2
小 計			3	5	2	5	0	4	4	1	1	1	1	6	33